

平成25年度 愛知県立丹羽高等学校 学校評価(本評価)

分掌・学年・教科	重点目標	取り組み	本評価
教務部	授業を大切にす。	7限授業に伴う増加単位、増加コマを活用し基礎、基本の習熟に努める。全体の底上げを工夫する。	46分7限授業も7年目に入り、慣れてきている。生徒への指導の工夫を教科・学年会等で検討している。
		46分間の授業を大切にすために教員は生徒に迅速な行動を働きかける。	生徒にはこの時間が定着している。教員も生徒への働きかけを十分に行っている。
		曜日変更等を行うことにより1単位当りの授業時間数の均一化を図る。	年度当初に1年間の時間数を計算して、均一化を図っている。本年度は月曜日の授業日数が極端に少なく、月曜日の7限ローテーションだけでは調整できなく、他日変更を5日行った。非常勤講師の勤務日の関係もあり、混乱した部分もあった。
		教員の出張、休暇に伴う自習・課題を回避するために時間割変更を追求する。	担当者は努力しているが、時間割が硬直しているため不可能な場合も多い。しかし、自習・課題は少なくなっている。
		授業を大切にすために諸連絡を迅速、適正に伝達する。	しっかり行っている。
		定期考査を厳正に行う。	職員朝礼の場で教員に対して毎回注意をうながした。教員は厳密に監督した。
生徒指導部	品位ある生徒の育成	学習アンケートを実施し、各教科、学年でも分析し、その結果を授業に活かす工夫をする。	学習アンケートを実施し、分析を行った。しかし、授業に活かすためにはまだ充分とはいえない。今後、授業等に活かせるように工夫したい。
		制服の正しい着用	福出しや女子の襟出し等のことがかなり少なくなり、女子のベスト着用期間を設けた効果もあって評価が高かったと考える。今後は、スカートの指導等に重点を置ける状況になってきたので、ポイントを絞り指導を行っていききたい。
		基本的な生活習慣の確立	ここ2、3年は、本当に落ち着いた学校生活が継続されている。遅刻や欠席も少なく、これは生徒達が、授業だけでなく、補習や部活動、学校行事等に高い意識を持ち、学校生活を送ってくれているからであると考え。
		挨拶の励行	挨拶についても、ここ数年は良い状態であると考え。ただ、挨拶は社会生活の基本でもあるので、校内だけでなく、いろいろな所でも同じようにできるように指導を継続していききたい。
進路指導部	進路について考える	整理整頓の推進	駐輪場や教室の周辺等、自分達で責任をもたなければならない場所での意識が低い。自転車を正しく止める、物を片付ける等は、社会でも必要なマナーである。自分の行動が周囲に与える影響について、しっかりと考えさせ指導を行っていききたい。
		望ましい職業観・社会観を育てるため、キャリアワークショップを開催するとともに職業体験等への参加を促す。	学習状況調査を実施し、生徒の進路について様々な角度から分析された資料を提供した。今後は、保護者・生徒に対して、多くの情報をわかりやすく提供する方法を考えたい。
		大学・学部・学科の理解を深めるためプチカレを実施し、オープンキャンパスへの参加等で主体的に情報を収集させる。	1年生でキャリアワークショップを開催し、職業観・社会観の育成をはかることができた。また、3年生で一日看護体験や幼稚園研修に参加する生徒もあり、この取り組みを広げていきたい。
進路実現のための学力の向上	学習会・補習に積極的に取組み、校内実考・学力テスト等を有効活用することで学力の向上を図る。	2年生でプチカレを開催し、学部・学科の理解を深めることができた。また、3年生を中心にオープンキャンパスにも参加して主体的に情報収集することができた。やや1年生において大学についての情報提供が少なかったため、改善していききたい。	
	検討会を実施して生徒の学力・志望などを学年で共有する。その情報を個人面談や保護者会にフィードバックさせる。	夏休み・冬休みに各学年で学習会を実施し、生徒は前向きに参加することができた。3年生では補習を継続して実施することで、少しずつではあるが成果をあげることができた。	
生徒会部	生徒会活動の活性化	生徒の主体的活動を奨励し、生徒会行事(球技大会、丹霧祭、文化行事、予餞会、清掃ボランティア、奉仕活動など)の活性化を図る。	3年生で検討会を実施し、さまざまな角度から生徒の状況を分析することができた。今後は1・2年生でも生徒の学力の分析につとめ、個人面談や保護者会への情報提供につなげたい。
		生徒会執行部・常任委員会の活性化を図る。	丹霧祭をはじめ各種行事において生徒の活動は概ね活発で、本校生徒の行事に対する姿勢は積極的である。しかし、一部生徒の中には行事への取り組みが消極的だと感じている生徒もいるので、生徒の行事に対する気持ちが少しでも高まるよう工夫していききたい。
		部活動の活動時間を確保する。	執行部・常任委員会とも、活動をよくやっている。生徒会活動が十分に伝わっていない点がある。また、議員自身が仕事に更に充実感を持てるようにしていききたい。
		部活動の活動時間を守らせる。	生徒は生き生きと部活動に参加している。部活動をもっと行いたいと思っている生徒もいるが、活動時間は十分に与えられていると考える。
		部活動の活性化を図る。	最終下校時刻が練習終了時間だという意識で行動しているため、どうしても下校時刻が遅くなりがちである。最終下校時刻はあくまで完全下校の時間だという意識の徹底が必要である。そのため、の周知をどうすべきか生徒会として考える必要がある。
総務部	保護者との連携(教育活動を積極的に公開する)	総会・学年懇談会に45%の出席を目標に担任から呼びかけをしもらう。	全体で90%程度の生徒が部活動に登録している。いわゆる幽霊部員の実態(実数)は把握できていない。参加している生徒がより積極的に活動に参加できる環境整備をしていききたい。
		各学年で最低1回は公開授業を実施し、実施後、保護者・生徒にアンケートを行い、授業改善に役立てる。	学年が上がるにつれて出席率が低くなる傾向がある。今後も学年との連携をこれまで以上に密にして、2・3年生の出席率を上げるよう努力していく。
		総会、公開授業等の案内を充実させることで出席率を高める。学校ホームページにも載せて広報する。	曜日の関係で公開授業時の科目が同一にならないよう改善を図る。また、アンケート回収率についてもさらにアップさせるような工夫を図る。
		保護者会、地区別PTA、理事会等において保護者の意見、要望を聴取またはアンケートを実施して、その結果を「丹羽高だより」やホームページを利用して報告する。	案内及び当日の様子について、学校HPを使って広報を充実させた。各行事後、実施したアンケート結果を、学校HPなどを通して迅速に報告することができた。

平成25年度 愛知県立丹羽高等学校 学校評価(本評価)

分掌・学年・教科	重点目標	取り組み	本評価
図書部	読書指導の推進	校内読書感想文コンクールを、実施する。	例年通り、校内読書感想文コンクールを実施することができた。
		読書への関心を高めるために、多読者表彰・雑誌展示会など各種イベントを実施する。	多読者表彰、イベント表彰、雑誌展示会、読書会など各種イベントを実施することができた。
		図書館だよりを定期的に発行し、推薦図書や話題の本を紹介する。	生徒図書委員が発行する「図書館だより」と、図書部からのお知らせ「NKT4」を定期的に発行した。図書館からの情報発信にさらに努めた。
		季節に応じた図書館内の飾り付けを充実させる。	図書館内と図書館前の掲示板を利用して、季節の飾り付け、新着図書を紹介等を充実させることができた。また、図書館内の本の展示台を使い見易くすることができた。
		生徒のリクエスト本にできるだけ応える。	限られた予算の中で、本を吟味し、生徒のリクエストに応えることができた。
保健厚生部	校内の環境美化に努める。	環境美化に対する意識を持たせるために、朝礼・LT・ST時や、大掃除等機会ある毎に呼びかける。	朝礼・行事等で、生徒に注意・啓発を行った。
		ゴミの分別を徹底するように、また、ペットボトルや空き缶を放置しないように指導する。	ゴミ集積場所で教室からのゴミ箱の中にペットボトル等の不燃ゴミが混ざっているクラスがたまにある。その都度個々に指導を行った。
		通常の清掃時間10分間や特別清掃の時間帯において、時間を有効に生かし、きちんと活動するよう指導する。	概ね達成できているが、不十分な箇所については、継続して指導していく。
		清掃点検を実施し、優良箇所は発表し、不良箇所については清掃監督者及び清掃担当生徒に連絡し、注意をする。	清掃点検結果で優良箇所を美化だよりで発表し、クラス掲示した。
研修部	職員の資質向上を目指す。	各教科の研究授業の実施を通し、授業能力の向上を目指す。	研究授業の実施状況は良好である。さらに研鑽を積んでよりよい授業をおこなってほしい。公開授業については、多くの方に参観していただけるように周知していく必要がある。
		現職研修を、充実した内容として、参加者の増加に努める。	保護者・生徒の、学校評価閲覧者は20%程度である。更に、学校評価がホームページに掲載されていることを宣伝する必要がある。
		学校評価を実施することにより、学校改善に役立っている。	教職員はさらに学校評価の結果を活用し、学校の改善に努めていく必要がある。
第3学年	基本的な生活習慣を確立させ、社会人としての最低限のマナーを身につけさせる。	挨拶をしっかりとさせる。	3年間でよくなるようになってきた。
		整理整頓をしっかりとさせる。	ロッカー内はまだ不十分な生徒がいる。継続指導が必要である。
		身だしなみを正させる。	一部にルーズな生徒も見受けられた。大勢の目で見て声をかけていく必要がある。
	進路実現に向けたきめ細かなサポート体制の確立。	朝学・土曜学習・特別講座・センター演習・補習に積極的に参加させることにより基礎学力・応用力の向上を目指し、全員第1志望校の合格を目指す。	自分の目標意識を持っている生徒が増えてきているが、十分とはいえない。基礎学力・応用力の定着を図るため、さらなる指導を実施していきたい。
進路目標達成のための学習時間の確保。	居残り学習へ積極的に参加させ、また「生活記録」を記録させることにより、家庭学習時間を確保させる。	受験も近づき積極的に居残り学習・業後の特別講座学習に参加する生徒が増えてきた。	
第2学年	品位ある39回生を目指す。	挨拶をしっかりとさせる。	挨拶をはじめ、「ありがとうございます」「ごめんなさい」が言えることの大切さ、さらには言葉遣いについても、3年次は特にしっかりと指導していきたい。
		時間を守らせる。	8:30着席指導もあって、連絡なしの遅刻は年間を通してほとんど無くきわめて良好であった。ただ提出物の期限については固定メンバーで守れない生徒が存在した。今後とも継続指導していきたい。
		整理整頓をしっかりとさせる。	生徒の各自ロッカー内の整理整頓については、1年次比べて状況は良くなっているとは言いがたい。教材の持ち帰り指導とともに、強力に継続指導していきたい。
		身だしなみを正させる。	男子の頭髪については指導が徹底出来た。女子のベスト着用についてはきわめて良好であったが、スカート丈については指導の不徹底が目立った。品位ある高校生を目指して、強力に継続指導していきたい。
		学年通信を月に1回程度発行する。	学年通信を通じて学年として生徒に要求することが確認できた。保護者にも一読していただくことによって、学年で指導している内容をご理解し、ご協力していただく一助になった。3年次も月に1回程度は発行していきたい。
	適当に28時間の家庭学習を達成する。	「生活記録」を毎日記録させることによって起床・学習・就寝の3点の時間を固定させる。	たんに学習時間の記録にとどまらず、毎日の生活の点検という観点はきわめて大切であると考え、3年次はまとめの年として、より学習中心の生活を行わせるためにも、生活記録を通じての個々の生徒の指導を強化していきたい。
第1学年	基本的な生活習慣の確立	挨拶をしっかりとさせる。	中間評価時よりも「できている」がやや減少した。今後も継続的に指導をしたい。
		時間を守らせる。	生徒と教員の間で認識の差がある。教師サイドの要求にもう少し応えられるようにさらに指導を続けたい。
		整理整頓をしっかりとさせる。	ロッカーの上やプリント類の整理ができていない。また筆記用具等の落とし物も多い。物を大切する気持ちを確認させたい。
	類型登録の充実	「朝読」を行うことで、落ち着いた状態で学校生活を始めさせる。	「朝読」の取り組み状況について、教師間で見解が分かれている。生徒の「できている」という回答が中間評価時よりも減少した。
		「進路サポート」を通して、職業意識や進路について考えさせる。	家庭で「できている」という回答が増えた。類型等についてよく話し合われた結果であり感謝したい。
		面談を充実させ、適切なアドバイスをする。	「できている」と回答した生徒が増えた。効果的に面談が行われたものと思われる。
	週末課題などを通して基礎学力を定着させる。	週末課題の提出期限に遅れる生徒が固定化している。保護者の回答では「できていない」が最も多く、家庭学習の時間が確保されていないようだ。粘り強く指導を続けたい。	